

聖心キャンパス



(創基100周年記念ロゴ)



第209号の主な記事

- ・平成28年度卒業式式辞
- ・退職教員挨拶
- ・新卒業生に聞く
- ・聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞
- ・聖心女子大学のあゆみ④
- ・キャンパスニュース
- ・グローバル教育環境整備事業について 等



平成27年度感謝の祈り

卒業特集



平成27年度卒業式



平成27年度トーチライト・プロセッション

未来に道をひらき みちのべ 道辺に愛の火を



聖心女子大学長 岡崎 淑子



皆様、ご卒業おめでとうござい
ます。これまで多くの方々のご指導、
ご支援と、皆様一人ひとりの努力に
よって、今日、卒業の日を迎えられ
たことを、共に感謝したいと思いま
す。保護者の皆様、お嬢様のご卒業
をこころよりお喜びもうしあげま
す。これまで本学へのご協力、ご支援を
いただきましたことを感謝もうしあ
げます。

今日、皆様は聖心女子大学を卒業
され、大学の同窓会の一員となられ
ます。それだけでなく、世界各地に
存在する聖心姉妹校の卒業生からな
る世界聖心同窓会の一員ともなり、
マグダレナ・ソフィア・バラの教育
の理念のもとでこの200余年の間
に学んだ世界中の聖心の卒業生と結
ばれることとなります。

学生生活を終えて出発される皆様
に、折に触れて思い出していただき
たいのは、聖心の学校で大切にされ
てきた精神、聖心のスピリットです。
その特徴は、寛大さ、よいものを人々
とシェアしようという気前の良さ、
行動をかりたてる力です。

聖心女子大学の校歌の歌詞に、「未
来へ道をひらけ、道辺に愛の火をも
えたせよ」とありますが、未来は、
多くの可能性を秘めた、明るく希望
に満ちたものであると同時に、激し
く変化し、不確定であって、不安や
恐れを抱かせるものでもあります。

明るい未来、激動する未来に向かっ
て、皆様は道を開いて進んで行くよ
うにと呼びかけられています。

「道辺に愛の火を」は美しい表現です
が、「道辺」は道端にとも言い換え
られます。進んでいく道のどんなど
ころにも、ふと歩いている道に、小
さな火をともしることができるとい
う。そこに、もし愛の火が燃えてい
なかつたら、あなたが、愛の火をと
もすように、と呼びかけられています。
また、道端とはいわず、目的をもつ
て大きな道を作り、そこに大きな火
を燃え立たせることもできるでしょ
う。

暗い道端にはさっと手を貸して明る

くしようとする人、道がないところ
には皆で力を合わせて道をつくり、
先に進めるようにする人、そのよう
な人の中にある前向きなエネルギー
を聖心スピリットと言ひ、決してス
タテイツクなものではなく、愛の火
をもえたせよ、にふさわしい、こ
ころの動き、行動をかりたてるも
です。

このようなスピリット、エネルギー
は、まずは自分のごく身近なところ、
職場や家庭で発揮されるだけでなく、
現代世界の地球規模の深刻な問題、
環境、人の移動、貧困、紛争、その
他の諸問題の解決、平和、開発の実
現のためにも、火を燃え立たせる原
動力となるものです。

マリアンホールのステージ正面に
は、200年以上前のマグダレナ・
ソフィア・バラの時から使われてき
た2つのハートの図柄を基とした徽
章があります。徽章やロゴは、それ
を使う人々や組織がよって立つ理念、
アイデンティティやヴィジョンを
表します。2つのハートは、キリス
トと聖母マリアの心臓を意味してお
り、一つの心臓はいばらに囲まれて、
その隣の心臓は剣で貫かれています。
大変深刻な図柄です。いばらと剣を
伴ったハートは、苦しみや犠牲をも
超えた愛を表しています。このよう
な伝統的な図柄の徽章が大切にされ
るとともに、グローバル化が進む現
代、世界の聖心で広く用いられてい
るのは、より現代的な図柄に、根本
的には同じメッセージやヴィジョン
が込められたロゴです。式次第の中
に載せてありますので「ご覧ください」。

オーブンハートと呼ばれるこのロ
ゴでは、ハートの形の上の部分が開
いており、その中に世界地図が描か
れています。開かれた心、寛大さ、
包容力をもって世界や世界の人々と
関わるというメッセージであり、中
に描かれた地図は、神の心に抱かれ
た私たちの心、世界の人々、地球を
表しています。ハートの上の部分に
3次元のクロスが描かれています。

これは単なる飾りではなく、重い意
味があります。異なる世界の人々に
心を開き行動しようとするときにし
ばしば乗り越えなければならぬ難
しさや苦しさがあることを象徴して
ます。



今日は3月11日で東日本大震災か
らちょうど6年となります。犠牲と
なられたすべての方々のためにお祈
りいたします。大震災で壊滅的な被
害を受けた宮城県石巻市立雄勝中学
校の前校長、佐藤淳一先生の著書『た
くましく生きよ』の中に、「瓦礫の
なかにできた「道」という一節があ
ります。(以下、引用)

津波による被害は私たちの想
像を超えていた。町のほとんど
は壊滅状態で、瓦礫の山となっ
ていた。：：：：：：：：：：：：：：：：：：：
だけは残した雄勝中が、瓦礫の
なかに虚しく浮かび上がって
いた。

それでも雄勝の町では、(3月
11日から3日後には)瓦礫のな
かにすでに「道」ができていた
ことに、私は驚き感動した。道
がなければ、行方不明者の捜査
もできず、山に避難した人も身
動きがとれない。そう考えた人
が、この大変な状況のなかで、
とにかく重機を入れて真っ先に
「道」をつくったのだらう。：
震災によって、私は改めて人間
のたくましさ、強さ、そして優
しさを知った。(佐藤淳一著『た
くましく生きよ』。響け！復興輪

大鼓 石巻・雄勝中の387日」
(ワニ・プラス、2012年、
46-47頁)
何とかして道を作らなければ、と
考えた誰かが、この道を作ったので
りません。大変な苦労があったに違いない
から、3月19日に「生徒77人全員無
事確認、バンザイ」とホワイトボー
ドに書くこともできなかったでしょ
う。

これから皆様一人ひとりが歩ん
でいられるさまざまな道の途中、道
で間に会ったときに、愛の火をと
もせるところでは、佐藤先生が言われ
るように、たくましさ、強さ、そし
てやさしさをもって、道をつくる人
になれる努力を続けていらつしやる
ことを期待いたします。

道辺に愛の火を燃え立たせ、未来
に向かって道をひらくようにこの呼
びかけと、オーブンハートに込めら
れた、開かれた心、寛大さ、包容力
をもって世界の人々と関わるという
メッセージが、皆様のこれからの人
生の道しるべとなりますように、ど
んな時にも一人ひとりを神さまがお
守り下さいますようにここからお
祈りいたします。





日本語日本文学科

山田 進



人間関係学科

鈴木乙史



「聖心への道」

1988年に聖心の教員になった最初のころは、広尾駅から商店街を通過して南門から入って1号館の日文科（旧国文科）研究室に向かっていました。それから少しして、広尾の六本木寄り出口から出て、構内のインターナショナルスクールに向かう坂を上って研究室に向かうというのが私の第一通行経路になりました。最初の10年くらいはインターに向かう坂を普通に歩いて学生を楽に追い越せました。ときどき後ろから早足の学生が追い越そうとすることがあるのですが、少し足を速めるだけで追い越しは断固許しませんでした。次の10年は少し頑張らないと追い越されそうになることがあり、10年くらい前から追い越される割合が増えてきて、いまでは学生に追いつけませんし、追いつき追い越そうとも思わなくなりました。

大学へは恵比寿駅から歩くこともあって、元気なころの「記録」は電車を降りてから自分の研究室まで11分ちょっとでした。いまは20分はかかります。

要するに体の力がなくなってきたわけで、これは明らかに自覚できます。問題は頭の方で、これは自分ではいまでのレベルにあるのかが分かりません。自分ではまだまだとは思っているのですが…。

ほぼすべてが男子学生（女子学生が1%）という大学から聖心に来たときにはどうなることかと思いましたが、すばらしい学生・教職員に囲まれて何とかやってこられました。ほんとうにありがとうございました。

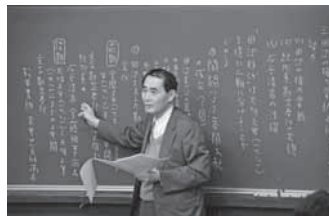
「すべての段階で得られるものと失うものがある」

私の好きな心理学説に、ライフサイクル論があります。最初の提唱者はユング、C.G.ですが、彼は人間の一生を4段階に分け、各段階には固有の意義と意味があり、得られるものと失うものがあると論じました。人の一生の出発点（誕生）と終着点（死）は皆同じであり、時代・文化・社会の違いを超えて人は同じような旅をするのだと主張しました。その第二段階は「成人期」、第三段階は「中年期」で、この2つの段階を本学の教員として過ごせたことを、私はとても幸せなことだと感じています。初めて南門からキャンパスに入ってきた時に、木々の大きさ、キャンパスの美しさ、静けさに感動しました。また定年が68歳ということで、「定年までだと38年間もいるのか、すごいことだな」と思ったことを記憶しています。その「すごいこと」を大過なく全うできたこと、同時に、さまざまな場面で支えて下さった教職員と学生の皆様に「ありがとう」と言いたいのです。私は、人は「その人の人格を生きる」と思っています。旅程は同じでも、どのような旅をするかはその人次第です。最後に、皆様が健康で有意義な人生を送ることができるよう、心から祈っております。どうぞ皆様、お元気で。



史学科

深井雅海



教育学科

永野和男



「ゼミ生とともに学んで」

非常勤として8年間、専任として8年間の合わせて16年間お世話になりました。私は、専任になってからは勿論ですが、非常勤のときから卒論ゼミを担当しましたので、学生と身近に接することができました。本学の学生は、よく言われることですが、真面目で、礼儀正しい人が多いようです。難しい講義でも（本人はわかりやすく話しているつもりですが）、大人しく聞いてくれていたような気がします。ただ教師としては、素直に聞くだけでなく、大いに質問もしてほしかったとも思います。

ゼミ生と、皇居（江戸城跡）や江戸東京博物館・深川江戸資料館などに行ったのもよい思い出です。こうして学生と絆が深まってきますと、大学院へ進学する人も出てきました。10人近い院生を指導いたしました。本人の希望を尊重しつつ、自分が知りたいテーマに意識的に誘導していたような気がします。おかげで、色んなことがわかりました。ゼミ生・院生に感謝しています。

このように、幸せな教員生活を送ることができました。先生方をはじめ職員の皆様、学生・院生の皆さん、本当にありがとうございました。



「感謝」

2000年4月に着任して、あっという間に17年が過ぎたこととなります。それまではずっと国立大学にいたこと、情報系で研究を進めてきたこともあり、慣れるまでにすこし時間がかかりましたが、いい職場仲間恵まれ楽しく充実した教育・研究生生活を送ることができたことをうれしく思っております。私の専門は、教育学という1970年代になって発展してきた新しい研究領域でした。私自身は、コンピュータという道具に早くから目をつけ、思い通りに使いこなせるようになるとともに、教育システムや情報教育カリキュラムの開発に40年以上携わってきました。教育学は学際領域なので、心理学、工学、生理学、情報学、社会学、建築など様々なバックグラウンドをもつ人たちの集まりで、問題解決型のプロジェクト研究を行うことが多く、たくさんの仲間がいましたが、この聖心女子大学にきたことによって、私の中にレバラルアーツや歴史認識、教育学など文系の観点からの視野が広がり研究に活かせるように思います。皆様には本当にお世話になりました。10年くらい前から、教育の情報化や教育現場での情報教育を支援するNPOを2つ主催しています。定年といってもまだ中年の域、これまで蓄積したことを基に、今後も、カリキュラム開発や教師支援、中高生向けの実践などに貢献できるように努めていきたいと思っています。



新卒業生に聞く

新卒業生のみなさんに左記の項目についてお聞きしました。
氏名の右は学科専攻名、左は在学中所属していた課外活動団体名等です。
①大学生生活の思い出
②聖心女子大学の魅力は？
③後輩に一言
④卒業後、あなたは？

英語英文学科英語英文学専攻
横江 真美
聖心祭実行委員会・公演セクション



①最も思い出に残っているのはゼミでの活動です。翻訳の勉強だけでなく、さまざまなことを経験することができました。まなことを経験することができました。先生、TAさん、友人にとっても恵まれ、楽しく充実した時間でした。
②自分の興味があることを追究することができる環境だと思います。研究したいと思う題材に出会えたとき、施設や制度は

もちろん、先生や研究室の方が必ず支えてくださいます。
③社会人になると、なかなかまとまった時間がとれません。留学や旅行、勉強、アルバイト、遊び……今しかできないことがたくさんあります。後悔のないように、学生生活を楽しんでください！
④法律事務所での秘書として勤務いたします。淡々と仕事をこなすだけでなく、周囲の些細な変化に気付いて自分から動けるよう、周りの方のお役に立てるよう努めてまいります。

日本語日本文学科日本文学専攻
宮原 瑠奈
初等教員特別プログラム



①当たり前に使う言葉ひとつひとつの奥ゆかしさに触れることで、日本語のもつ奥深さや麗しさを再認識し、一方で保育者の視点から幼児教育について考え、幼児教育に携わる重さに向き合えた学び多き4年間でした。
②親身になってくださる副手さんや先生方、毎日隅々まで綺麗にしてくださる清掃の方、素敵な挨拶で迎えてくださる警備員さんがおり、沢山の温かさを感じられるところなんです。また四季折々の植物を楽しめる校内も魅力のひとつです。
③何事も、始めるに遅いことはありません。少しでも頭をよぎった事は、臆せず挑戦してください。周囲の環境に憚られることなく何にでも挑戦できる今の時間をぜひ大切にしてください。
④中学時代から目指してきた幼稚園教諭として、東京都の幼稚園に就職いたします。教育実習での多くの課題を糧に、子ども達と同じ視線で日々を楽しみ、自らも成長していけるよう精進してまいります。

哲学科専攻
阿部 桃子
ゴルフ部(3年次まで)



①夢に挑戦し続ける4年間でした。プロスポーツ選手を目指し、学業との両立に打ち込んだ日々は、かけがえのない宝物です。この努力し続けた4年間は、今後の人生において、私に自信を与えてくれることと思います。
②デイスカッションを重視した生命倫理学演習に3年間所属していたことで、先生や友人との議論を通じて、哲学は答えや正解がある学問ではなく、永遠に問い続ける学問であるということ、多角的に、深く理解することができたと感じていました。

③直感に従ってみてください。やらなければならぬことに縛られすぎるとはなく、自分の気持ちに正直に、心のグラスを満たすことを大切にしてください。常にキラキラ輝くような学校生活にしてほしいと思います。
④世界各国に足を運び、国際親善や文化交流に携わる仕事をしていきたいと思っています。温かい愛を、今度は発信する立場として活動をしていきます。

歴史社会学科史学(日本史)専攻
根岸 奈穂
年鑑編集委員会



①専攻分野の講義、ゼミ、学科旅行を通して歴史学を追及することの楽しさや面白さを大いに実感し、自分の興味や関心により深めることができた4年間でした。委員会でのセクションヘッドとしての経

験は、今後の自分の大きな糧となりました。また、大学2年から教職課程を履修し、中学校・高等学校の第一種免許状を取得するという目標を達成することができました。
②聖心女子大学の魅力は、幅広い分野の学問を少人数制指導のもとで学ぶことができる点です。また、親身になって支えてくださる先生方、お互いに刺激しあえる仲間たちに恵まれたと思います。
③大学の4年間はあっという間ですが、自らの行動力、選択次第で自分自身を大きく成長させることができます。4年間という限りある時間を有効的に活用し、今しかできないことに沢山挑戦して、学生生活を有意義なものにしてください。
④卒業後は、聖心女子大学大学院に進学する予定です。大学院では専修免許の取得を目標に、専門分野での学びをさらに深めていきたいと考えています。

歴史社会学科人間関係専攻
青木 まり花
MSSS(手話セクション)



①様々な方との関わりを通して、自らの世界を広げることのできた4年間でした。特にMSSSの部長として活動し、人との信頼関係を築く大切さを学んだ経験は、私の大学生活における宝物です。
②人の温かみを感じられる点です。何時も支え合える友人や、一人一人に丁寧に対応して下さる先生方や職員の皆様がいたからこそ、4年間を実りあるものにすることができました。
③どんなことに対しても前向きに、自分のためになると思って挑戦してみてください。幅広い経験・多様な出会いによって、自分だけの色鮮やかな大学生活を送ることができました。

とができると思います。

④生命保険会社へ地域総合職として就職する予定です。前向きに努力を怠らず、これまで多くの方からいただいた優しさを、今度は自分が周囲に与えられる存在になれるよう精進して参ります。

歴史社会学国際交流専攻

高橋 幸

ゴルフ部



①部員と切磋琢磨しながら過ごしたゴルフ部での日々はかけがえのない思い出です。部活を通して、技術面だけでなく体育会の厳しさやチームの結束の大切さなど多くを学ぶことができた4年間でした。

②学生の探究心に先生方が親身になって応えてくださる所です。所属する法学ゼミでは先生の丁寧なご指導のもと自分で納得がいくまで研究することが出来ました。

③勉強でも遊びでもスポーツでも、学生生活の間にしか出来ないことは多くあるように思います。是非毎日を楽しみながら、悔いが残らないように様々な体験をして下さい。

④地方テレビ局に就職します。大学での学びを活かし、人々の生活に少しでも役立つような仕事をしたいと思っています。初心を忘れず、責任を持って情報を伝えていきたいです。

秋山 愛子

M.S.S.S. (ムックセクション)



教育学科心理学専攻

①学び続けたいと思う学問と出会い、M.S.S.S.やサークルの活動を通して様々な人と関わった4年間でした。特にM.S.S.S.の活動でパートナーとなった子

どもとの関わりは、楽しいだけではなく多くのことを学ぶことができる貴重な経験でした。

②少人数制の講義が多く、尊敬する先生方との距離が近いことです。進路などについても相談に伺いやすく、そのお話からは人生の先輩として学ぶことがたくさんありました。

③大学生活は、勉強だけではなく様々なことに挑戦できる時です。新たな出会いや経験を積極的に求め、視野を広げ、さらなるチャレンジにつなげてください。

④本学大学院の臨床心理学研究領域に進学します。幼少期の心理を中心に研究活動に励むとともに、心理援助職の資格を取得できるように勉強を続けるつもりです。

白井 水葵

書道愛好会



教育学科教育学専攻

①様々な人と関わり、多くのことを吸収できた4年間でした。特に、スウェーデンへのスタディーツアーでは、日本とはまた違った教育現場を実際に見て学ぶという貴重な体験をすることが出来ました。

②幅広い分野の学問に触れることで、自分がしたいことは何かをじっくり考えることが出来ます。また、物事に対しての視野が広がり自分の可能性を広げられるのも魅力だと思います。

③挑戦する心を忘れないでください。学内に限らずたくさんのお話を吸収する場があります。私はあと一歩が踏み出せず後悔することも多くありました。後悔先に立たず、です。

④子ども用品を扱う会社に入社します。一人ひとりのお客様を通して、より多くの子どもたちの未来を考えられる人間を目

指し、精進してまいります。

教育学科初等教育学専攻

平野 愛佳

チアリーディング部
HEARTLES



①この4年間は、ただひたすら新しいことに挑戦し続けた毎日でした。大学からチアリーディングを始め、幼稚園・小学校の教員免許をとると決めたこと、全てが挑戦で、目まぐるしくも青春を謳歌した4年間でした。

②本気で向き合っただけで先生や副手さんの存在が、1番の魅力だと思います。勉強や進路に行き詰まった時には、一緒に悩み、解決策を考えて下さいました。

③お恥ずかしい話ですが、私は学校生活や部活を通して、大失敗を繰り返してききました。自分の無力さに呆れ、涙を流した日も少なくありません。しかし、失敗をするからこそ、人は何かを得て、学ぶというのを知りました。失敗を恐れず、前に突き進んで下さいね。

④東京都の公立小学校の先生になります。4月から教壇に立ち、子ども達から「平野先生」と呼ばれる自分の姿は、まだまだ想像出来ません。きっと緊張のあまり、手汗に悩まされる日が続くことでしょう。焦らずゆっくりと、子ども達と一緒に成長していきたいです。

卒業記念品について

第67回卒業生から、保健・衛生用品が寄贈されました。

学生事務部学生生活課

宮代会だより

新卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。皆さまを宮代会第67回生としてお迎え出来ることを大変嬉しく思います。これから社会に巣立っていかれる皆さまにとって宮代会は同じ学び舎での思い出を分かち合える場として、いつでも皆さま方をお待ちしております。

宮代会は聖心女子大学同窓会として現在約2万5千人余りの会員を抱えた、国内の姉妹校同窓会8校と共に、日本聖心同窓会(J.A.S.H)のメンバーです。国内には12の支部、海外にも5支部があり、世界聖心同窓会(A.M.A.S.C)の一員として世界とも繋がっています。

宮代会は「会員の親睦」「母校への協力」「社会貢献」の三つの柱を掲げ、大学構内の宮代会館を拠点として活動しております。宮代会館の幾つかの部屋はフラワーアレンジメント・書道・ティセレモニーなどのお稽古を通し会員の親睦の場としてご利用いただいております。

また、各種団体がOG会員登録をされ、卒業後も世代を超えた交流が行われています。母校への協力としては在学生対象の「宮代会特別奨学金(学業優秀な学部生2名)」「宮代会奨学金(学業優秀な大学院生1名に2年間)」「エリザベス・ブリット基金奨学金(経済的支援を必要とする優秀な学部生2名)」「また卒業後、年齢に制限なく学びたい宮代会会員を支援する「さくら奨学金(公募2名)」を給付しています。

社会貢献は、会員の皆さまから寄せられた古着・古切手の有効活用、点字サークル、拡大製本、縫製奉仕などの活動を通じて行っています。

こうした宮代会の活動は毎年1月発行の同窓会誌「宮代」、毎年4月発行の会報「宮代会ニュース」にも記載しております。どうぞお手元に届きましたらご覧下さいませ。大学ホームページ「卒業生の皆さん」をクリックしても、最新の活動の様子を随時アップし、紹介しております。

各方面でご活躍の卒業生がたくさんいらっしゃいます。どうぞ宮代会館にお出で下さいませ。

聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞



聖心会創立者
聖マグダレナ・ソフィア・バラ
(1779~1865)

建学の精神は、一人ひとりの学生の生活の中で生きられてこそ、目的を達成するものです。

本学では、建学の精神をよく体現し、模範となる学生生活を送ったと認められる卒業見込みの学部生に対して、褒賞を行っております。

受賞者は当該年度の卒業式において表彰され、学長より賞状および副賞が授与されます。



平成28年度受賞者は、次の3名です。

英語英文学科	4年	出射	靖子さん
英語英文学科	4年	小寺	本恵さん
哲学科	4年	羽瀨	信子さん

*受賞者の言葉は、次号の聖心キャンパス第210号（5月下旬発行予定）に掲載予定です。

卒業委員会 活動報告

卒業記念ジュエリー
制作のご報告



卒業委員会は、卒業関連行事のための活動をしており、学生会役員会の4年生が担当しております。卒業委員会の役割は、卒業記念ジュエリーの企画、謝恩会の打合せから当日の司会進行、卒業学生会費の管理など、多岐にわたります。

卒業記念ジュエリーの企画では、株式会社フジモリ(MITUBACI)さんと協力して卒業記念リングを制作しており、何度も打合せを行ってきました。

聖心女子大学の卒業記念としてふさわしいものにするため、リングやジュエリーボックスに大学名や校章を刻印することにし、ボックスのカラーや印字の書体等、

細かな点に至るまで、綿密な打合せを重ねました。その結果、社会人となっても身につけ続けることができるものとなりました。全体として派手すぎずシンプルすぎない、聖心女子大学の学生のイメージを反映したデザインにすることができたと感じております。

卒業委員会の活動は、役員それぞれが卒業論文の作成や就職活動と同時進行での活動となったため、3人そろってミーティングをするための日程調整も困難でした。

しかしそれだけに大きなやりがいがあったようにも思います。

現在は、就職内定先の試験やアルバイト等、忙しい時期ではありますが卒業委員会役員としての仕事も残っています。春休み中も卒業旅行や各自のキャンパスライフを満喫しながら、役員活動をしています。

学生生活の最後の締めくくりとして、卒業式当日まで努めてまいります。



卒業委員会 4年 矢島 早織

平成28年度聖心女子大学「学長賞」

授賞式 平成28年 1月19日(木)

聖心女子大学「学長賞」は、学術研究活動、課外活動、社会活動等で特に顕著な成果を挙げた学生または学生団体を褒賞するもので、平成27年4月に創設されました。1月19日(木)にマリアンホール1階ブルーパーラーにて表彰式が挙行されましたので、その様子を受賞者の声と共にご紹介します。



リタジーサークル

私たちリタジーサークルは、大学創立当初に設立され、学内の宗教行事に携わってきた伝統ある課外活動団体であり、本学の建学理念の根底を流れるキリスト教精神を学生の立場として理解し、発信していくことを目指して活動しています。その一環として、キリスト教になじみのない方や、大学に入って初めてキリスト教にふれた方に、「カトリックとは何か」ということをわかりやすくお伝えしたいと考え、『カトリック・ハンドブック』を作成しました。また、新しい始業ミサを企画するなど、カトリックについての理解を広げるさまざまな活動を評価していただき、平成28年度「聖心女子大学学長賞」を受賞することができました。

このような活動を行えたのは、学長様をはじめ、先生方や職員の方、シスター方など多くの方が応援して下さいたからこそであると部員一同強く感じております。また、今日の活動まで約65年以上この団体を引き継いでくださった数多くの先輩方、関係者の方々、OGの皆様方に心から感謝申し上げます。

この賞を光栄に思うと同時に、これからも忙しい日々の中でも祈りを大切にしていける団体であり続けるように精進して参ります。

リタジーサークル部長 西山 円菜



黙想会でアクティビティに取り組む部員



カトリック・ハンドブック



SHRET

この度は、学長賞にご選出いただき、SHRET一同心より御礼申し上げます。

世界難民の日に合わせて開催された、学食で難民の故郷の味をいただく meal for Refugees、難民に服を届ける衣料品回収活動、学生提案型の総合現代教養科目「難民問題の現状と課題」を始めとし、出張授業や勉強会といった、日々の活動を評価していただきました。SHRETでは2002年の設立以来、数多くの先輩方が、現在まで大切に受け継がれている様々なプロジェクトを率いてくださいました。そして何より、顧問の永田先生、教職員の皆様、国際機関やNPO・NGO関係者の皆様のご指導の下、活動の継続ができておりますことを、この場をお借りして感謝申し上げます。これからも、部員一人ひとりが難民問題に真摯に向き合い、学生にできることは何かを考え、実行に移すことのできる団体であり続けたいと思います。

SHRET2016年度代表 増田 京美



難民に服を届ける衣料回収活動



Meal for Refugees



佐々木日奈子さん (国際交流学科3年)

この度は、学長賞にご選出いただき、有難うございます。外務省主催のプレゼンテーション・コンテストの出場や、E.S.S.でのスピーチ大会出場、ギターアンサンブルクラブでの活動等、日頃の成果を評価していただきました。また、E.S.S.ではスピーチ大会の運営も行い、お陰様で第50回目の学長杯を、ギターアンサンブルクラブでは第47回定期演奏会を成功させることができました。勉学だけでなく、課外活動も積極的に励んできたことが、学長賞という形で実り、大変光栄です。

今回は個人での受賞となりましたが、多くの方の支えがあったからこそこの受賞であると実感しております。ご指導くださいました先生・先輩方をはじめ、お世話になりましたすべての方に感謝申し上げます。有難うございました。

この賞を励みに、今後とも精進して参ります。



外務省主催
プレゼンテーションコンテストで

拡充から変革へ

「建学の精神を体して 独自性発揮と質的充実を」

— 第4代学長 内山孝子

聖心女子大学では創立35周年の記念事業として1980年から5ヶ年計画で始まったキャンパスの施設整備事業により、体育館の新設、教室・研究室・ゼミ室の増設、図書館書庫の増設、学寮の整備・統合など、新しい教育の要求に応えるよりよき環境づくりが進んだ。そして迎えた内山孝子学長の時代（1983年～1993年）には、増え続ける入学志願者数を背景に教育・研究および学生生活の拡充が進められ、さらに新設した将来ビジョン委員会の活動などによる大学改革も始まった。

内山学長は「一人ひとりの学生の個性を伸ばし活かすための」カリキュラムの充実、日本語教員課程の新設、資格取得制度の整備、推薦留学制度の導入、海外研修旅行の拡充など大学の「質的充実」に努める一方、「精神的資質の向上という教育問題」に迫り、21世紀への本学の貢献として「精神文明を築く固有の使命」を果たすことを望んだ。自らは社会の新しい動きに常に注意を払い、建学の精神を現代の状況の中でいかに具現化するか心に砕いた。学生には大学生生活の中で、時として混迷する世界情勢に対応しうる「黄金にまさる」知恵を求め、精神的に深みのある人間性を自ら形成することの重要性を繰り返し述べている。知育、徳育、体育を通して、21世紀を担う地球社会の一員として社会を築き世界に平和をもたらすことができる人間に成長することを希（こいねが）い、学生たちを励まし続けた。

（総務部担当課長 飯田洋子）



学位記授与（1987年ころ）

聖心女子大学蔵

第1回卒業式から現在に至るまで、学位記（卒業証書）は学長から新卒業生一人ひとりに手渡されている。

世界聖心同窓会（AMASC）第8回世界大会（1986年）



聖心女子大学蔵

4年に1度の総会が本学キャンパスで開催され6日間の大会期間中「異文化間のコミュニケーション」をテーマに、世界24ヶ国から集まった約1000名の聖心同窓生が活発な意見交換を行なった。将来のAMASCを担うヤングメンバーは若者だけの夕べに集い語り合い、歌や踊りを披露して交流した。



サンディエゴ大学への研修旅行（1984年）

聖心女子大学蔵

1974年度に始まった海外研修旅行は1989年度夏期にはアメリカ、イギリス、フランス、スペイン、オーストリアの5ヶ所の研修に計162名が参加する盛況となった。韓国、台湾、インドネシアでの研修も行なわれていた。



子どもたちとソーラーパネル作り



ソーラーパネル完成

「講演会：ふくしまからありがとうを世界に」 & 「エネルギーの上流と下流を繋ぐスタディツアー」報告



収穫したコットンから、また新しい種を聖心へ

2016年11月30日、「いわきおてんとSUN企業組合」の島村守彦氏をお招きして、福島復興を考える講演会を宮代ホールにて開催しました。講演では、企業組合の活動のうち、オーガニックコットン栽培と、ソーラーパネル制作を中心にお話いただきました。

オーガニックコットン栽培は、地元「賑わい」と「なりわい」を取り戻すプロジェクトの一つとして進められているものです。本学の学生団体・園芸クラブGreen Thumbの”SHOC project”(Sacred Heart Organic Cotton)のメンバーも関わっており、現地でのボランティア活動や、学内の学寮前での栽培等の活動をしています。昨年夏には、このオーガニックコットンを使った製品づくりや販売を考えるインターンシップにも本学学生が関わらせていただきました。

ソーラーパネル制作は、自分たちでソーラーパネルを作り、これからのエネルギーの在り方について学び考えるプロジェクトとして始まりました。現在では、大きな地震を経験したネパールの、あるいは小さな島国であるミクロネシアの、といった電気のない地域の学校に電気を灯す活動へと発展してきています。東日本大震災直後の大規模停電の経験をきっかけに太陽光発電に取り組みはじめたこと、それを住民や小中学生の力で手作りして設置すること、そして、同じように不便や不安を抱える世界の方々にもプレゼントできないかという発案が小学生からあったことなどが語られました。

2017年2月20日～21日、本学学生20名が、このプロジェクト「エネルギーの上流と下流を繋ぐスタディツアー」に参加しました。福島県広野町といわき市の当時の被災状況、避難所となった学校や子どもたちの様子、復興の現状と防災計画について等のお話と現地視察とともに、ワークショップを受講し、いわき市立三和小学校5年生21名とソーラーパネル作りに取り組みました。このパネルは本年3月に、電気のないネパールの学校に、ネパール語も交えて書かれたメッセージを添えて、届けられ設置されることになっています。

聖心女子大学災害復興支援会議
植田 誠治 (教育学科・教授)

サステイナブル

持続可能な学校づくり in スリランカ - ESD ワークショップの挑戦 -

2016年9月4日から8日間の日程で「発展途上国における教育問題1」(指導教員:永田佳之教授)を履修した学生のうち、学部生9名・大学院生1名がスタディツアーに参加しました。

2015年9月、国連で2030年までの未来に向けた国際目標SDGs(持続可能な開発目標)が採択されました。その目標には17項目の課題があり、4項目には「質の高い教育」が掲げられ、教育への期待も寄せられています。本スタディツアーでは、ごみ・水/衛生・食に焦点を当て、ペラデニヤ大学の大学院生や教授、日本の民間企業の方々のご助言をいただきながら、スリランカにある村の公立学校をサステイナブルな学校にするためのワークショップを行いました。前期の授業で学んだ知識を、一度も訪れたことのない学校でワークショップを実践するという、何ともスリリングな学び多い体験をしました。

6月下旬、参加学生が決まり、それぞれのスタディツアーの目的、目標を共有し、9月の出発まで事前学習、民間企業への訪問、専門家による講義等の入念な準備をしてスタディツアーに臨みました。その甲斐もあり、現地スリランカでの活動は充実したものとなりました。帰国後、「発展途上国における教育問題2」の授業では、聖心祭でパネル展示を行い、その後、報告書を作成し、報告会を開催しました。

これら一連の学びが、一人ひとりの心の糧となり、それぞれの人生の中で大きな意味を持つ深い学びにつながっています。本スタディツアーに関わった皆様に感謝申し上げます。有難うございました。

大学院博士前期課程
人間科学専攻教育研究領域
神田 和可子



水島尚喜教授から美術指導も受けながら、子どもたちが思い思いに描いた3種類(Paper, Organic, Plastic)のごみ箱とスリランカの教員、大学院生、子どもたちとの集合写真

第42回フランス語スピーチコンテスト

2016年12月15日、宮代ホールにて、「第42回フランス語スピーチコンテスト」が開催されました。このコンテストは、フランス語の科目を履修している1年生と2年生の学生たちが、フランス語の詩や物語を朗読し、日頃の学びの成果を発表するもので、毎年度開催されています。

今回は、ケベック州政府在日事務所広報のマーク・バリボー様、静岡大学非常勤講師の小山エロディ先生、本学非常勤講師のベアトリス・マレシャル先生をお招きして審査をお願いし、優秀賞には、1年生部門に岡田英里さん、2年生部門に国際交流学科の赤井宝さんが選ばれました。

今年度は1年生の参加者が14名もおり、フランス語を1年も勉強していないにもかかわらず、自ら自己紹介を書き、難しい文章を完璧に暗記しただけでなく、自然に演じていたことが見どころでした。2年生の参加者(7人)はフランス語やフランスの文化の知識を生かして好きな詩を選び、感動的な朗読をすることができました。

スティープ・コルバイユ (国際交流学科・准教授)



九州復興支援のためのチャリティーカフェと
オリジナル防災キット作成のワークショップ11月30日(水)
場所：学生食堂

2016年4月に発生した地震により被災された九州の方々を思い、前期に続き2回目のチャリティーカフェを11月30日に学生食堂にて開催しました。メンバー手作りのクッキーを被災地の状況を記載したチラシなどと共に販売し、62,651円をカトリック福岡司教区に寄付することができました。12月2日には、学生たちの防災意識を高めるため、オリジナル防災キットを作成するためのワークショップを開催しました。東日本大震災を受け、Torch for girls 代表として女性の目線から見た防災冊子を作られた、櫻井彩乃さん(国際交流学科3年)を講師として迎え、参加者と共に災害時に自分にとって必要なものについて考え、意見交換を行いました。支援を行うだけでなく、災害を自分のこととして捉えるきっかけとなりました。

心理学科 2年 高橋 依紗子

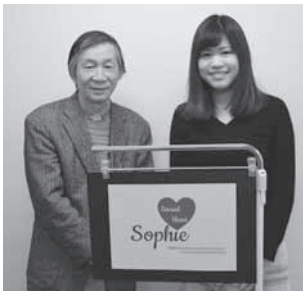


USH step for 九州は、2016年4月に発生した熊本地震を受け、被災された方々のために活動したいという思いをもったメンバー約50名のグループです。今後も、私たちに可能な範囲で支援活動を行っていきたくと考えています。

「Sophie」のログイン画面の新しいデザインが決まりました



2016年度後期より、教学支援システム「Sophie (ソフィー)」が稼動しています。「Sophie」は在学生専用のサイトで、休講・補講、教室変更、履修登録・確認、成績通知、学生ポートフォリオ、掲示や学生への連絡等の情報が掲載されており、随時更新されています。



このたび、「Sophie」のログイン画面デザインについて、これまでの「聖心女子大学創基100周年記念ロゴマーク」にかわる新たなデザインの公募を行い、原真理子さん(教育学科教育学専攻4年)と井上風生さん(国際交流学科3年)のデザインが選ばれ、1月26日(木)に表彰式が執り行われました。新しいログイン画面には、2017年4月から切り替わる予定です。

「Sophie」は、「SOPHisticated Interactive Environment for the Seishin Human Network」の略称で、カトリック女子修道会の一つである聖心会の創立者 Madeleine Sophie Barat (聖マダレナ・ソフィア・バラ)の愛称に由来しています。

後期ジェネラルレクチャー報告

2016年9月28日から12月7日まで10回にわたって、「後期ジェネラルレクチャー」が行われました。

「YABC: Youth as Agents of Behavioural Change
～今、国際機関が注目する行動変容の担い手としてのコース～」
赤松 直美 国際赤十字・赤新月社連盟
アジア大洋州本部(組織推進担当)

「開発援助をめぐる現実と葛藤」
石井 洋子 人間関係学科准教授

「星のお話～星座と星と私たち～」
永田 美絵 コスモプラネタリウム渋谷 プラネタリウム解説員

「サイボーグ技術と医用福祉機械の展開」
横井 浩史 電気通信大学教授

「私たちは何を食べてきたのか、
何を食べているのか、何を食べていくのか」
太田 和彦 総合地球環境学研究所 研究員

「海外向けニュースの放送に携わって」
石川 千晶 NHK国際放送局ワールドニュース部ニュースデスク

「人・ことば・文化(その1): 日本語を教えるということ」
岩田 一成 日本語日本文学学科准教授、木下 ひさし 教育学科教授

「人・ことば・文化(その2): 異文化に入るとのこと」
山口 昭彦 史学科教授、久保田 知敏 国際交流学科准教授

「人・ことば・文化(その3): 高齢者とのコミュニケーション」
濱口 壽子 英語英文学科准教授、神前 裕子 心理学科専任講師

「副専攻について」 佐々木 恵介 学務担当副学長
「2年生になるということ」 川津 誠 学生担当副学長

2017年度「聖心女子大学キリスト教文化研究所教養ゼミナール」開講

2017年度も、キリスト教文化研究所主催の「教養ゼミナール」が開講します。大勢の皆様のお講をお待ちしております。

通年講座

世界の聖地紀行	日本人とキリスト教
キリスト教とオルガン	キリスト教美術を見る眼
シェイクスピア講読	文学と人生
ヨハネ福音書を読む	アガペー研究
幕末・明治初期の聖書訳史と近代日本文章の創出	アウグスティヌス『神の国(De Civitate Dei)』を学ぶ
『源氏物語』『宇治十帖』を読む	信仰と、〇〇

※詳細・担当講師はホームページならびにパンフレットをご覧ください。

特別講座

信仰と、〇〇	富原 真弓 (本学哲学科教授) 久保田 桂子 (本学心理学科非常勤講師) 山田庄太郎 (本学哲学科専任講師) 磯部悠紀子 (本学哲学科非常勤講師) 倉持 長子 (本学日本語日本文学学科非常勤講師) 印出 忠夫 (本学史学科教授)
--------	---

◇会場 キリスト教文化研究所・ゼミ室他
◇申込締切 3月24日(金)
◇お問い合わせ、パンフレットのご請求、お申込み
聖心女子大学 キリスト教文化研究所事務局
03-3407-6089 (電話・FAX)
kiriken@u-sacred-heart.ac.jp
http://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/christ.html

第50回聖心女子大学学長杯争奪 英語弁論大会優勝 国際交流学科 3年 藤 亜莉沙

2016年12月10日(土)



今回、聖心 E.S.S. 主催の第50回聖心女子大学学長杯争奪英語弁論大会にて、本学代表として出場し、優勝いたしました。聖心 E.S.S. 部員の丁寧な運営の下、厳しい予選を勝ち抜き全国から集まった10名の出場者によるスピーチと、ヴァイオリニスト原田真帆氏による美しい演奏が、100名を超える観客を魅了しました。

私は、ハラスメントという人権問題について話し、その恐怖と深刻さ、そして、より多くの人によるその問題への認識の必要性を訴えました。偶然今回の弁論大会は国連の人権デーである12月10日に行われ、この素晴らしい日にスピーチさせて頂けたことを嬉しく思います。

スピーチを書くにあたり、リサーチ、インタビュー、ブレインストーミングを繰り返しながら自分の意見を確立させましたが、特に、リベラルアーツ教育の本学で、教育学、心理学、法学、哲学の授業を履修し、ハラスメント問題を多角的、客観的に考える環境に恵まれたことに感謝しております。

第16回カトリック女子大学総合スポーツ競技大会

カトリック女子大学総合スポーツ競技大会は、聖心女子大学、京都ノートルダム女子大学、ノートルダム清心女子大学、白百合女子大学、清泉女子大学の5大学がスポーツを通して大学間の交流と親睦を深める目的で開催されています。

次回は2017年11月25日(土)・26日(日)に本学で開催予定です。



実りある大会

第16回カトリック女子大学総合スポーツ競技大会2016年12月10日、11日に京都ノートルダム女子大学にて開催されました。

今大会は私たちバレーボール部にとって、4年生が引退されてからの初の公式試合であり、4年生が作り上げてきたものと、新チームで練習してきたことをしっかりと発揮し、戦うことのできた、非常にいい機会でした。結果は3位でしたが、これから新チームとしてさらに加速していくための課題、修正点をたくさん見出すことができ、とても収穫の多い2日間となりました。

大会出場に向けてサポートしてくださったコーチやOG、先生方、皆様に感謝申し上げます。来年度の大会でも、チームにとってより良い成績を残せるよう、日々努力を惜しまず、部員一同精進して参ります。

バレーボール部 3年 阿部 真璃子

2016年12月10日(土)、11日(日)

会場：京都ノートルダム女子大学

聖心女子大学は総合3位となりました。
種目別では、硬式テニスが優勝、バスケットボールは第2位、バドミントンは第5位、バレーボールは第3位でした。



クリスマス・パジェント 2016.12.14,17

リタジーサークル部長 3年 西山 円菜

2016年12月14日(木)、17日(土)に、学内聖堂にてクリスマス・パジェントが開催されました。この行事は、無言劇と朗読、歌によってイエス・キリストのご降誕の出来事を表現して祝うものです。

今年度は、手話を加えるなど新しい試みに挑戦し、リタジーサークル、朗読同好会、MSSS、ミュージカル研究会など、各団体それぞれが持つ良さを生かした大変意義深いパジェントであったと思います。

クリスマス・パジェントは、多くのことが移り変わる時代の中、私たちがイエス・キリストのご降誕を通して、本来自分たちに大切なことは何かを、心静かに立ち返ることができる時間であると思います。

そのようなパジェントが、多くの方々と分かち合えたことは、嬉しい限りです。この場を借りて、ご協力いただいた関係者の皆様、来場くださいました多くの方々にお礼申し上げます。



聖堂での成人式ミサ 2017.1.12

リタジーサークル 2年 中村 優花

2017年1月12日(木)の学生ミサで、パウロ・ヤノチンスキー神父様に、私たち新成人のためにミサをあげて頂きました。このような素敵なミサに参加できたことに心より感謝致します。

私たち新成人は、ミサの中で神父様から一人ひとり祝福を頂きました。肩におかれた手の優しさとおメダイと聖書箇所の記事されたカードを頂いた時の嬉しさは忘れることのできない大切な思い出です。

今年自分が成人を迎え、その喜びを感じることができたのは、今まで育ててくれた家族やお世話になった方々、いつも見守って下さる神様がいられてこそです。感謝と尊敬の思いを改めて感じるとともに、成人としての責任感をしっかりと持ち、多くの方々に貢献していける大人になることを固く誓いました。

そのために、これからも様々な方面で努力を重ね、大学生活が実りあるものになるよう精一杯精進して参ります。この度は本当にありがとうございました。



聖心女子大学は、グローバルマインドを育む環境づくりを進めています 「グローバル教育環境整備事業」

発行 聖心女子大学

〒150-8938

東京都渋谷区広尾4-3-1

TEL 03-3407-5811 (代表)

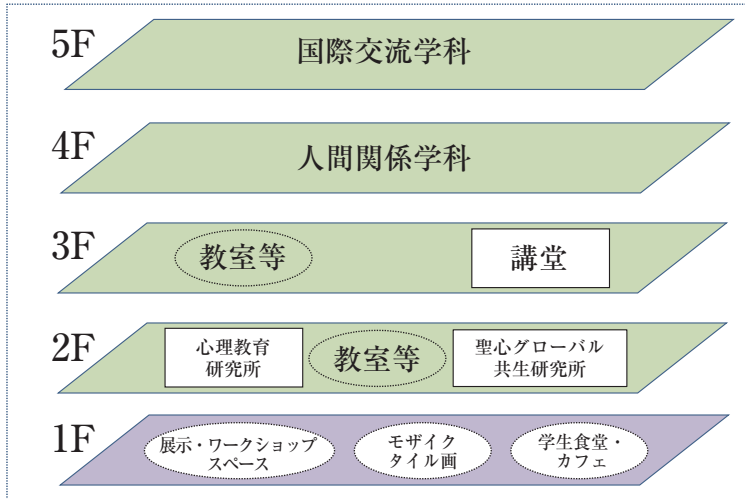
編集

聖心女子大学

企画部

発行年4回(3・5・7・11月)

グローバル教育の 新たな拠点 4号館



聖心女子大学が使命に掲げる「グローバルな視点で物事を捉えて行動できる賢明な女性の育成」のための拠点として4号館/聖心グローバルプラザの整備を進めており、建物の改修が順調に進んでいます。

その概要は、正面ロビーにモザイクタイル壁画「黄金の林檎」(田窪恭治氏作)を配し、左右には、本学学生だけでなく姉妹校や地域の高校生、一般の方々も利用できる「出会い・気づき・深まりのある学び」のための展示・ワークショップスペースとカフェテリアが広がります。3階には500名ほど収容可能な講堂が準備されています。

また、2、3階には教室や学生研究室のほかに聖心グローバル共生研究所、心理教育相談所が設置され、4階と5階は人間関係学科と国際交流学科の新しい研究室となる予定です。

新学寮の建設

聖心女子大学の学寮は緑豊かなキャンパス内にありますが、現在の学寮にかわる新たな学寮の建設が、2017年2月に着工しました。

新学寮は全室個室となっており、8つの個室で1つのユニットが構成されています。

多くの留学生の受け入れが可能となり、日常的な国際交流の場となることが期待されます。

グローバルな視点を持った人間を育成することを目指す本学にとって、学寮生活は国内外の様々な背景をもった学生たちが共に生活する環境として重要な役割を果たすこととなります。

POINT!

- 1、全て個室
- 2、それぞれのユニットにリビング完備
- 3、定員約100名増
- 4、通年滞在可



北棟リビング完成予想図



学寮正面外観予想図

マリアンホールの 大規模改修

本学のシンボルであり、聖心女子大学の教育の伝統を象徴するマリアンホール。その外観やインテリアを極力保持しながら大規模改修を2017年4月～2018年3月まで行います。



ご寄付・ご支援のお願い【グローバル教育環境整備募金】

本学は、「世界の一員としての連帯感と使命感をもって、より良い社会を築くことに貢献する賢明な女性の育成」を使命に掲げてまいりました。

より一層使命の達成に邁進するため、大規模なキャンパス環境の整備を行い、全学的なグローバル教育の推進を計画しております。つきましてはこの計画を実現するために、皆様からのご支援を厚く広く賜りたくお願い申し上げます。

●寄付金ホームページ URL :

<https://www.u-sacred-heart.ac.jp/about/contribution.html>

【募金に関するお問い合わせ先】

聖心女子大学 経理部
〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-3-1
TEL 03-3407-5811 (代)
FAX 03-3407-5856
E-mail: keiribu@u-sacred-heart.ac.jp